

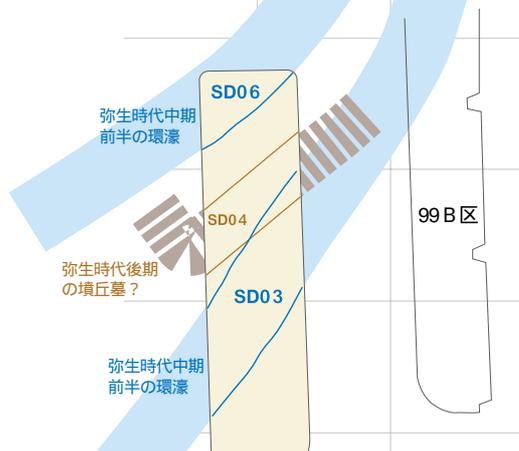
まいいぶん 愛知

特集 ～ 東と西をつなぐ縄文・弥生時代 ～

東西弥生文化の接点

かんごう ひら てちょう
環濠・平手町遺跡 (名古屋市北区平手町)

弥生時代の集落遺跡として全国的に著名な西志賀遺跡。
この遺跡では、昭和20年前後の数次にわたる学術調査が行われています。この北東に位置する平手町遺跡の調査では、集落を囲む溝、環濠が2条見つかりました。これら2条の溝からは、大量の土器とともに貝や獣骨などを含む貝層が見つかりました。出土した遺物から、前期後半の溝(SD06)が内側に、中期前半の溝(SD03)が外側に位置し、その間に土塁状の高まりがあったと推定されます。



SD03の断面(ハマグリが主体の貝層)



従来、弥生時代の東西日本列島をつなぐ遺跡として注目されてきた西志賀・平手町遺跡の解明は、新たな一歩を踏み出しました。



SD06の断面(カキが主体の貝層)

まいぶん「掘」つとらいん

今回から登場の ~まいぶん「掘」つとらいん~ は、発掘調査の成果を文字どおり「ホット」にお届けするコーナーです。

今回は新発見が相次ぐ縄文・弥生時代にスポットを当ててみました。



水入遺跡から出土した縄文土器

みずいり 水入遺跡

豊田市渡刈町大屋敷～下糟目
愛知県埋蔵文化財センター

水入遺跡では、第二東名自動車道建設に伴い、平成10年7月から発掘調査を行なっています。昨年度は、古墳時代から戦国時代までの遺構・遺物が多数発見されました。今年度はさらに古く、縄文時代から人々が生活していたことが分かりました。縄文時代中期の竪穴住居跡4軒、晩期の土器棺1基、焼土坑20基以上が検出されました。竪穴住居跡には方形のものや円形をしたもの、さらに石で囲った炉跡が残っているものもありました。出土遺物は、深鉢形の縄文土器のほかに、石鏃や磨製石斧・石匙・石錘などがあります。



調査風景



竪穴住居

（埋文セ 中野良法）

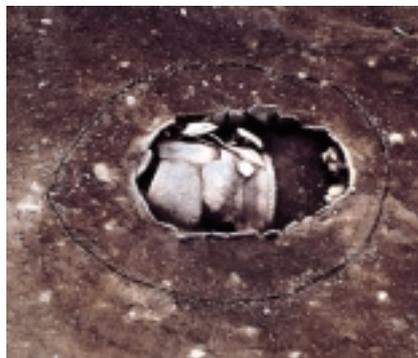


土偶出土状況

うしまき 牛牧遺跡

名古屋市守山区小幡
愛知県埋蔵文化財センター

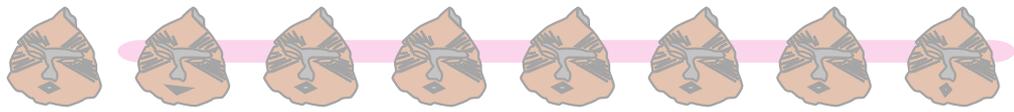
牛牧遺跡は、名古屋市の北東部、守山区の庄内川に向かって下る台地の縁辺部に位置しています。調査は県営守山住宅建て替えに伴い、1,000㎡を対象に実施しています。検出された遺構の中で特に特徴的なものは、縄文時代晩期前葉から後葉の土器棺墓群であり、その数は30基を超えています。東海地方の縄文時代の墓制を考える上で貴重な資料となると考えられます。さらにその下面にもピット・土坑・住居跡などが検出されることから、尾張地域にて数少ない縄文時代集落の調査例として注目されます。



土器棺出土状況

（埋文セ 川添和暁）





のぐち きたで 野口・北出遺跡

稲沢市井堀野口町ほか
稲沢市教育委員会

野口・北出遺跡は、稲沢市の西部に位置し、木曽川の分流である三宅川の右岸の自然堤防の高まりとその西に続く後背湿地に立地します。平成5～8年度に愛知県埋蔵文化財センターが調査した弥生時代中期後葉の一色青海遺跡は本遺跡の西約50mに所在し、両遺跡の間には、自然流路が流れていたようです。本遺跡の西端部で老人福祉施設が建設されることになり、平成11年1月から7月にかけて、合計1,274㎡を発掘調査しました。その結果、弥生時代前期後葉の竪穴住居1棟、弥生時代中期中葉の方形周溝墓7基などが検出され、一色青海遺跡より遡る集落の存在が確認されました。(稲沢市教育委員会 北條献示)



竪穴住居



方形周溝墓



ねこじま 猫島遺跡

一宮市千秋町塩尻
愛知県埋蔵文化財センター

猫島遺跡は、弥生時代中期・鎌倉時代を中心とした遺跡で、名神高速道路一宮パーキングエリア建設に伴い、平成11年4月より発掘調査をしています。弥生時代中期前半の遺構として遺跡の周囲をめぐると思われる溝や方形周溝墓、水田、井戸などがみついています。



D区大溝内遺物出土状況



猫島遺跡全景

(埋文セ 蔭山誠一)



みはらしだい 見晴台遺跡

名古屋市南区見晴町
名古屋市見晴台考古資料館

見晴台遺跡は笠寺台地の南端に位置する、弥生時代後期の集落跡を中心とした遺跡です。夏恒例・市民参加の発掘調査も、今年で39回目を迎えました。今回の調査では、弥生時代後期を中心に遺構・遺物が見つっていますが、なかでもこれまで見晴台遺跡では出土したことがなかった「銅鐸の飾り耳片」や「ヒスイ製勾玉」の存在が目立ちます。どちらも小さな資料ですが、見晴台遺跡を考えていく上で重要な資料になるでしょう。



調査風景



調査風景



見晴台遺跡全景

(名古屋市見晴台考古資料館 田原和美)

をかしな遺物

No.2



おかじま 岡島遺跡の 謎の壺 ~ 台付短頸壺 ~

西尾市江原町の岡島遺跡で平成10年度に出土した、一風変わった土器を紹介します。この土器は、筒形の体部に半球状の上げ底が設けられ、この底より下方には透かし窓が設けられています。台には、凹線文が施されているため弥生時代中期末葉のものと思われ、10年ほど前の同遺跡から類似品が1例確認されています。土器の内側には全体的にスガが付着して口縁部脇には吊り紐を通す為と思われる穴が、複数開けられています。この土器がどのような使われ方をしたのか、まだまだわかっていません。(埋文セ 松田 訓)

* * * * *



カマドの
検出状況

“炎”の中の力持ち

~ 支脚として使用された高杯 ~

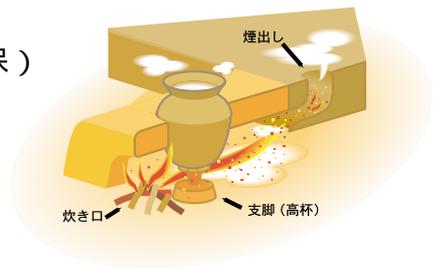
豊田市永覚町の本川遺跡では、5世紀中葉の住居から三河で最も古い部類に入るカマドが見つかりました。このカマドでは支脚として高杯が逆さにして使われています。高杯は支脚専用に使われたようで、厚ぼったい造りをしてます。同様な例は近接する神明遺跡にもみられ、古い段階のカマドにそうした例が多いようです。

(埋文セ 佐藤公保)



使われて
いた高杯

カマドの模式図



* * * * *

編集後記

前号の中世遺跡の特集に続き、今号は縄文・弥生時代遺跡の特集としました。縄文時代の2遺跡は、愛知県においては貴重な縄文集落の調査例です。また、弥生時代では、尾張地域における各時期の環濠集落の調査事例が揃いました。特に、平手町遺跡の環濠は、朝日遺跡の環濠(左下写真・昭和60年度調査)



をほうふつとさせるものです。これらの調査成果が、東と西とをつなぐ当地域の重要性を大いに高めることは間違いありません。今後の展開にご注目ください。

まいぶん 愛知 No.58

発行 平成11年9月30日
編集 (財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017
愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24
TEL 0567-67-4163 FAX 0567-67-3054
印刷 クイックス

